

「意識調査結果に見る個人の仕事と生活の調和に与える生活環境の影響について」

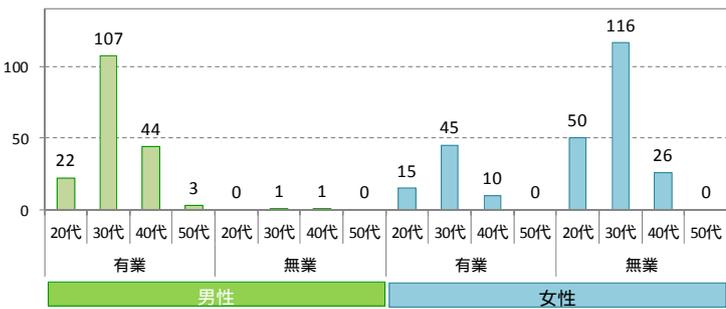
ここでは、内閣府が平成 22 年 12 月に実施した「仕事と生活の調査（ワーク・ライフ・バランス）の実現に影響を与える生活環境に関する意識調査」において、育児や看護・介護に携わる人々の属性や、配偶者や親族などからの支援、あるいは行政の制度や民間のサービスなどの生活環境及びそれらの支援やサービスの利用による満足度などへの影響などについて質問した結果を紹介します。

調査の概要 調査対象：全国 20 歳以上 60 歳未満の男女 2,500 人（人口構成比で割付）
 調査期間：平成 23 年 2 月 25 日～ 3 月 4 日
 調査方法：調査会社の登録モニターに対するインターネット調査

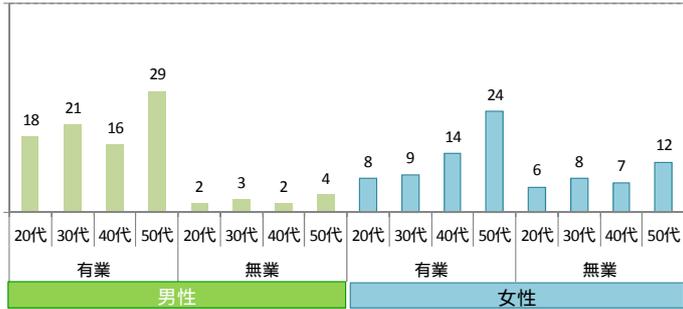
未就学児と同居する人（以下「育児をする人」という。）は 30 歳代が多く、男性は有職者、女性は無職者の比率が高い。看護・介護が必要な家族と同居する人（以下「介護をする人」という。）は 50 歳代に多く、男女ともに有業の人が多い（図表 1）（50 歳代では母、父、配偶者を看護・介護する人が多くなっている。）
 行政の制度や民間のサービス（サービス等）の利用について、「育児」に関するサービス等は育児をする人の 3 割前後が利用、「看護・介護」に関するサービスは介護をする人の 4 割前後が利用している（図表 2）
 サービス等の利用は、私生活の満足度を高める可能性があるだけでなく、仕事の満足など関連する領域での満足度も高めることも考えられる。「『仕事』と『私生活』のバランス」についても現在の満足度が高い傾向があると同時に将来の見通しについても肯定的な影響を及ぼしている可能性のあることも考えられる（図表 3）

（図表 1）育児や看護・介護する人の分布

『育児をする人（未就学児と同居する人）の分布』



『介護をする人（看護・介護を必要とする家族と同居する人）の分布』

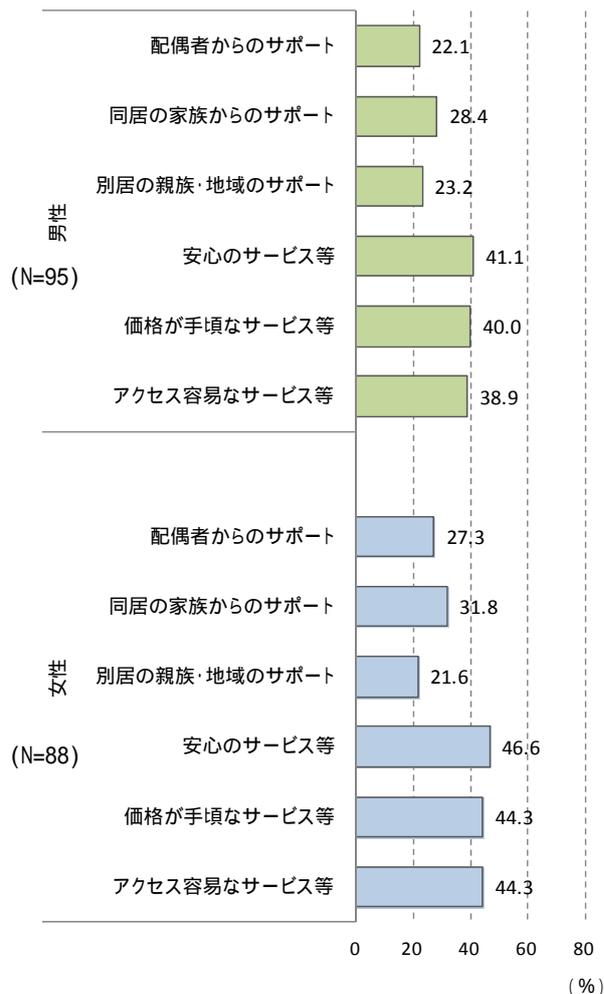
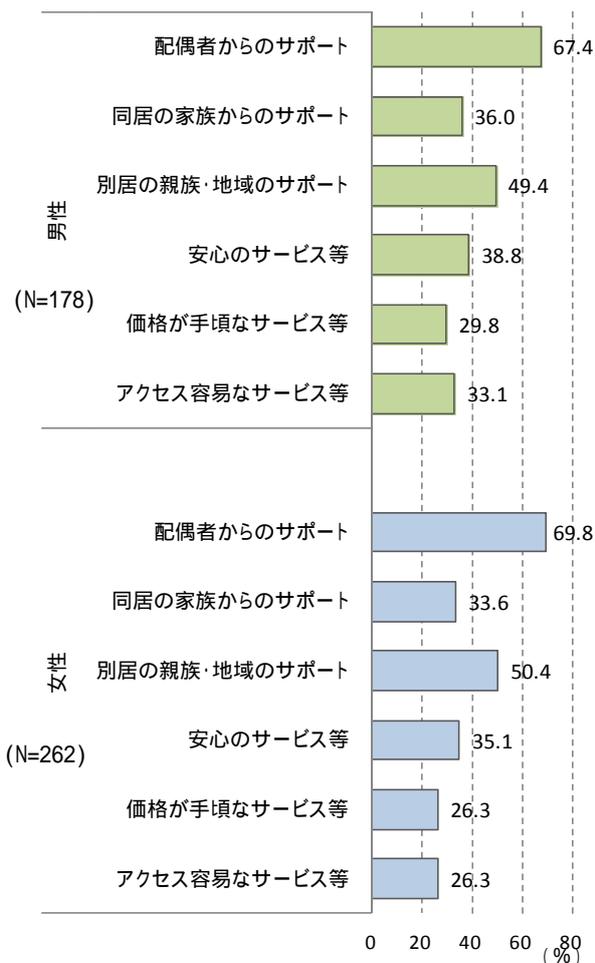


(図表 2)

配偶者・親族等の支援や、行政の制度や民間のサービス（サービス等）の利用について

< 「育児をする人」の育児向け支援やサービス等の利用の状況 > (N=440)

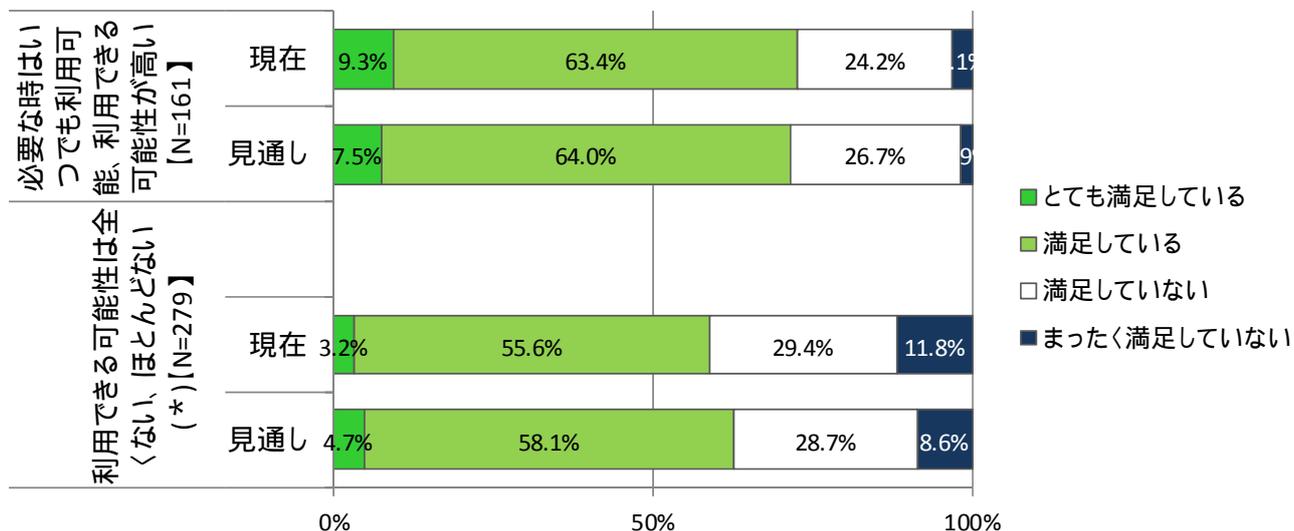
< 「介護をする人」の介護向け支援やサービス等の利用の状況 > (N=183)



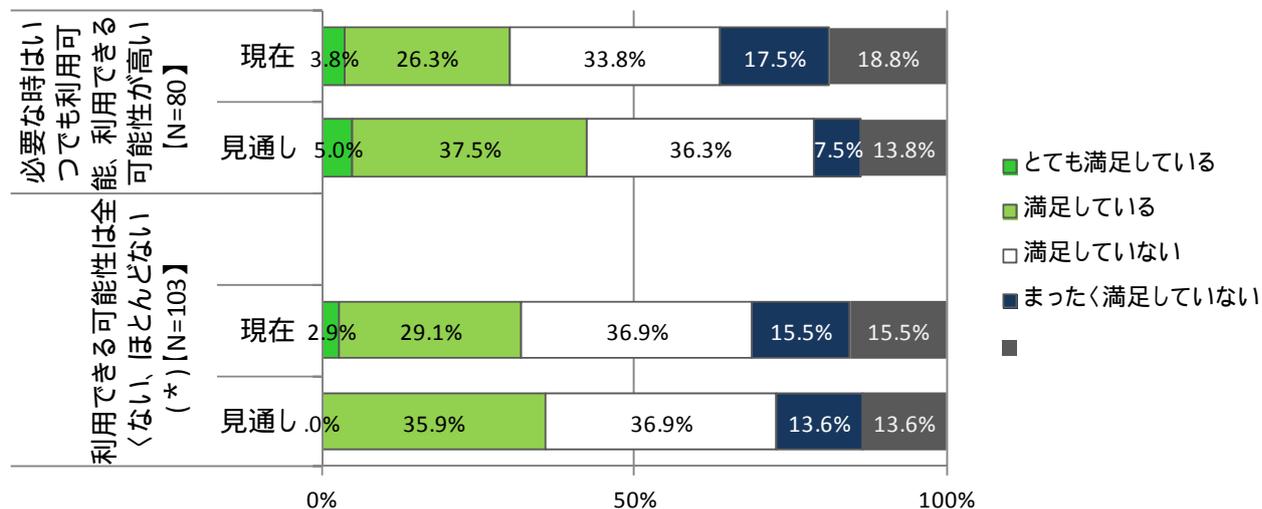
「必要な時はいつでも利用可能(いつも利用している)」、「利用できる可能性が高い(ときどき利用している)」の合計。

(図表3) 『仕事』と『私生活』のバランス』についての現在の満足度と将来の見通し

< 育児をする人 > (N=440)



< 介護をする人 > (N=183)



(*) 「施設/サービスの提供自体がない」「わからない」を含む

「ワーク・ライフ・バランス社会の実現と生産性の関係に関する研究（平成 22 年度）」
報告書から

調査概要：

ワーク・ライフ・バランスの実現と、労働生産性の向上を図るための方策を探ることを目的として実施。

平成 21 年度からの 2 年計画で、以下の 2 つの検討課題を設定し、調査研究に取り組んできた。

検討課題 1 職場における時間当たり生産性の違いはどのような背景から来ているのか

検討課題 2 我が国と欧州各国の労働時間にどの程度の差があるのか

このうち、検討課題 1 については、独立行政法人経済産業研究所（以下「RIETI」という。）と協力し、共同でアンケート調査票の設計等に取り組んだ。

== 本文 ==

以下では、検討課題ごとに主なファインディングスを紹介する。

検討課題 1 職場における時間当たり生産性の違いはどのような背景から起きているのか

検討課題 1 については、日本及び欧州の企業、従業員を対象としたアンケート調査の結果を用いて、WLB の取組や、仕事管理、職場管理、労働時間管理といった仕事の仕方が、生産性にどのような影響を与えているかについて検討を行った。

日本は、欧州に比べて総じて WLB の取組の程度が低く、WLB 関連制度の導入率も総じて低い状況にある。（図表 1）

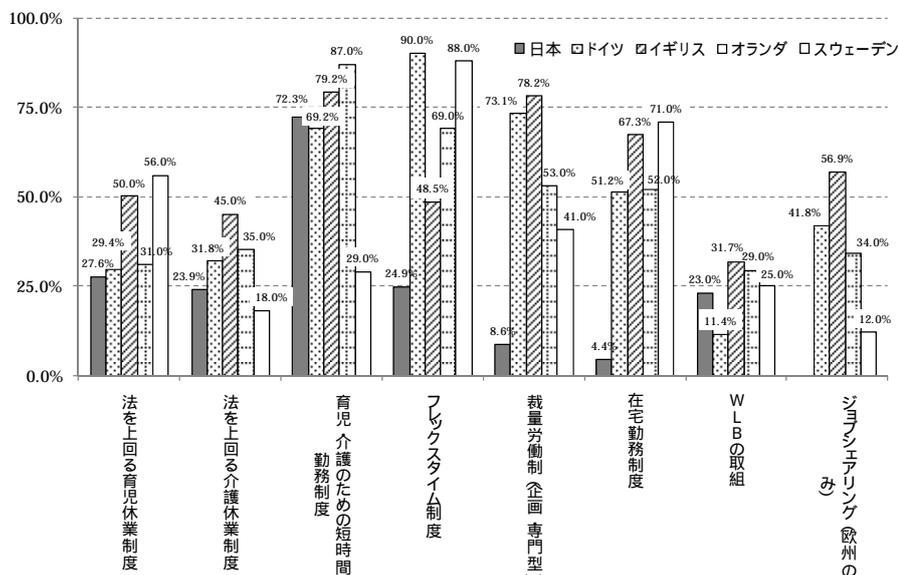
日欧ともに、WLB に積極的に取り組んでいる企業や職場の方が、企業の業況や職場の業績が良い傾向が見られる。（図表 2）

日欧とも、上司の職場管理が適切で、上司自身の WLB の実践や理解度が高い職場の方が、業績が良い傾向。（図表 3）

日欧ともに、所定の時間内で仕事を終えようとする雰囲気がある職場や、職場のコミュニケーションが良好、仕事のノウハウを教え合う風土などの職場環境があるほど、職場の業績が良い傾向。（図表 4、5）

日欧ともに、「一定の時間の中で可能な限り高い成果を上げる」という考えを持つ社員の職場の方が、業績が良い傾向。（図表 6）

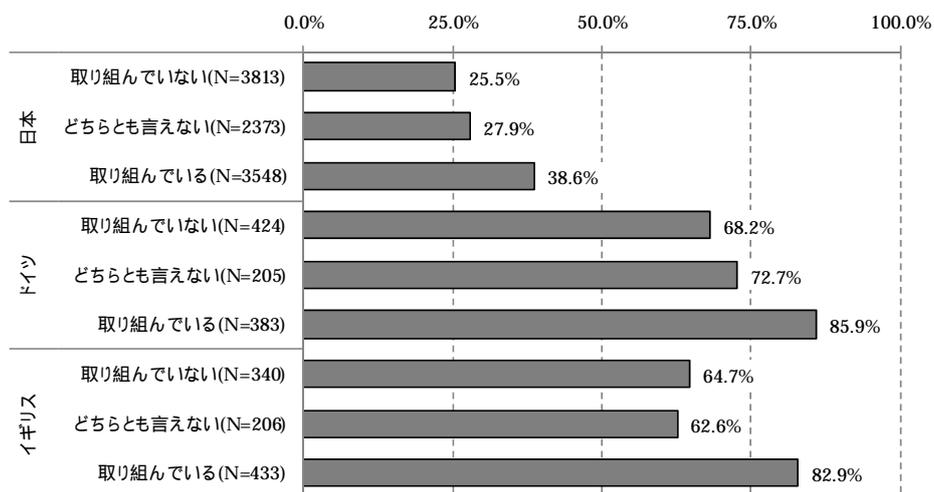
図表1 WLB関連制度の導入状況（制度が「有る」と回答した割合）【企業調査】



(注1)「WLBの取組」とは、社員の仕事と生活の調和をするための方針の明確化や推進組織の設置などのことをいう。

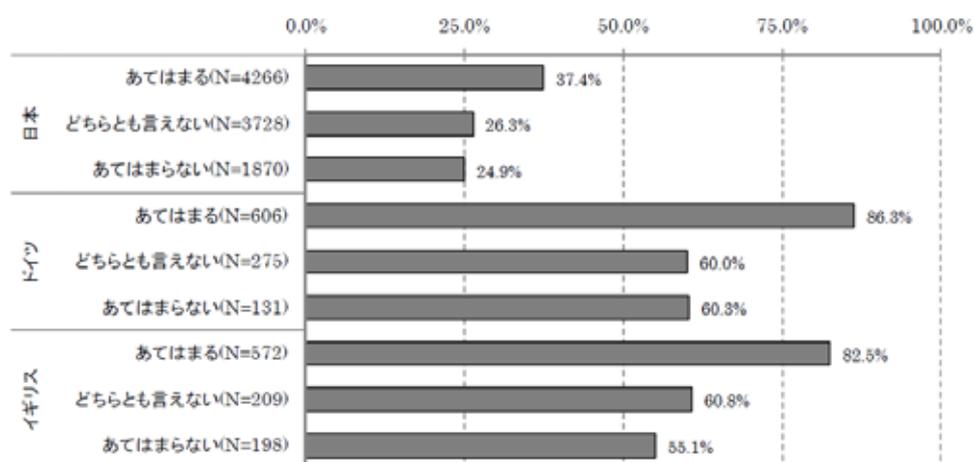
(注2) 集計対象企業数は制度により異なる。

図表2 WLB関連制度の取組状況別の「職場の業績が良い」割合【従業員調査】



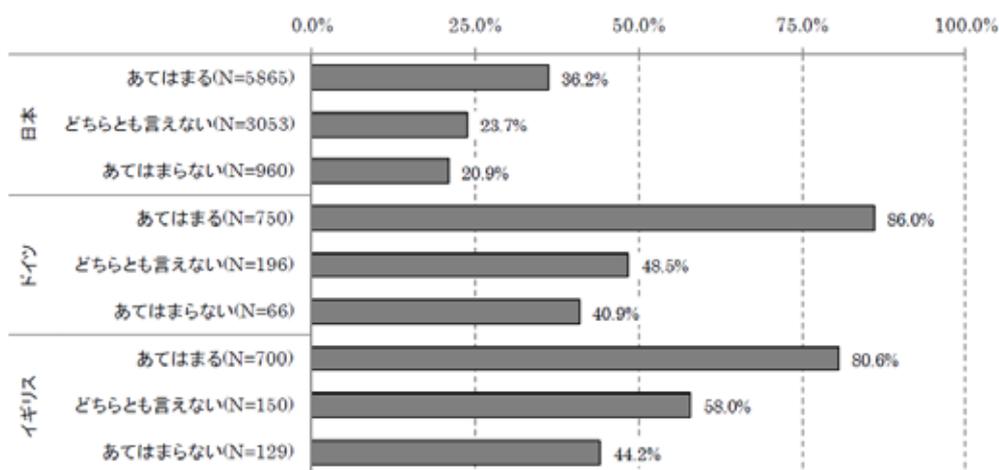
(注) 取組んでいる：取組の度合いを示す0～10のスケールで、取組んでいる度合いが6～10点
 どちらとも言えない：上記のスケールのうち、中立点である5点
 取組んでいない：上記のスケールのうち、取組んでいる度合いが0～4点

図表3 上司自身がメリハリをつけた仕事の仕方をしている程度別の「職場の業績が良い」割合



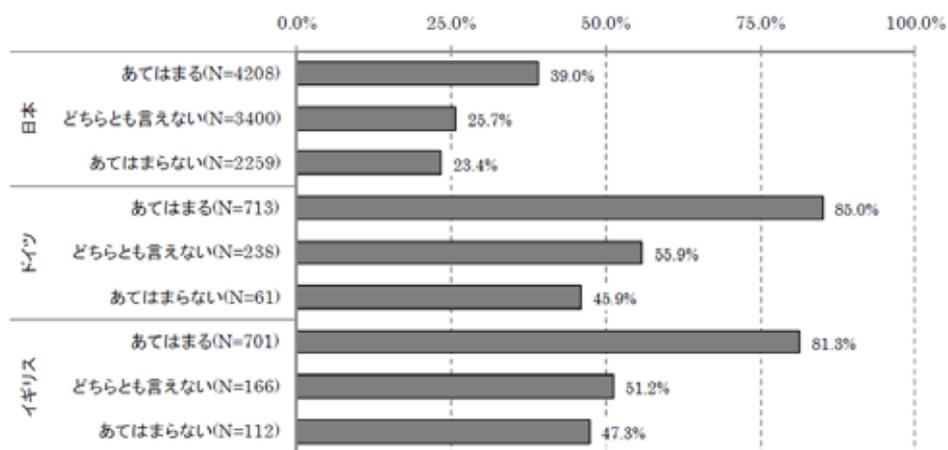
(注) あてはまる：「あてはまる」「どちらかと言うとあてはまる」を合算した回答
 あてはまらない：「どちらかと言うとあてはまらない」「あてはまらない」を合算した回答。

図表4 職場の同僚間のコミュニケーションの良好さ別の「職場の業績が良い」割合



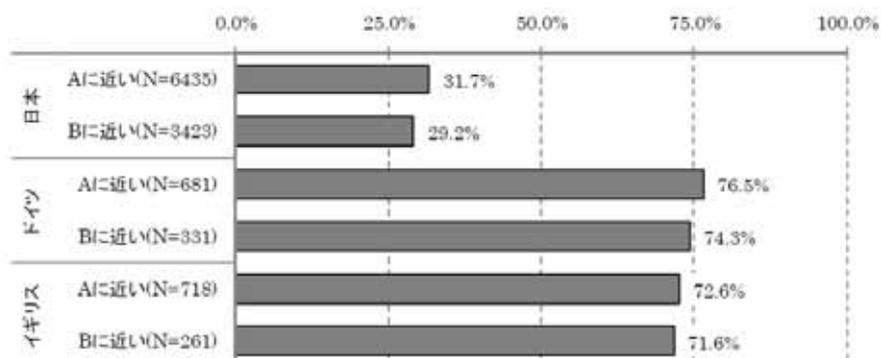
(注) あてはまる：「あてはまる」「どちらかと言うとあてはまる」を合算した回答
 あてはまらない：「どちらかと言うとあてはまらない」「あてはまらない」を合算した回答。

図表5 職場には同僚同士で仕事のノウハウを教え合う風土別の「職場の業績が良い」割合



(注) あてはまる：「あてはまる」「どちらかと言うとあてはまる」を合算した回答
あてはまらない：「どちらかと言うとあてはまらない」「あてはまらない」を合算した回答。

図表6 「仕事の成果を上げること」に対する考え別の「職場の業績が良い」割合



(注) A：一定の時間の中で可能な限り高い成果をあげる
B：高い成果をあげるために働く時間を惜しまない
Aに近い：「Aに近い」と「どちらかと言うとAに近い」を合算した回答
Bに近い：「Bに近い」と「どちらかと言うとBに近い」を合算した回答

検討課題2 我が国と欧州各国の労働時間にどの程度の差があるのか

検討課題2については、そもそも日本と欧州との間で、労働時間にどの程度の差が生じているかを把握するため、日本については総務省統計局「社会生活基本調査」の個票データ、欧州については「欧州統一生活基本調査」(HETUS)の公表データを用いて、「平日・勤務日」と「週末・非勤務日」のそれぞれについて、正社員(フルタイム雇用者)の生活時間の全体像(1日の時間の使い方)について、男女別に分析を行った。

「正社員(フルタイム雇用者)」の1日の時間の使い方に関する日欧比較(図表7、8)

労働時間

平日・勤務日、週末・非勤務日ともに、日本の労働時間は、欧州に比べて男女ともに非常に長い。特に、平日・勤務日では、日本の男性は9時間55分、女性は8時間32分となっており、日本の次に労働時間が長い国に比べ男性では1時間以上、女性では20分の開きがある。

パーソナルケア(食事、睡眠、身の回りの用事)の時間

男女ともに、平日・勤務日については、日本のパーソナルケアの時間は欧州よりも比較的長い傾向にあるが、逆に、週末・非勤務日については、日本は欧州各国よりも短い。

日本のパーソナルケアの時間には職場での休憩時間が含まれていることに留意する必要があり、パーソナルケアの中で最も長い時間を占める睡眠時間については、平日・勤務日、週末・非勤務日ともに、日本は、欧州に比べて短い。

レジャー時間(テレビやラジオ、休養・くつろぎ、趣味・娯楽など)

平日・勤務日については、男女ともに日本のレジャー時間は、欧州よりも比較的短い。しかし、週末・非勤務日については、逆に、日本の男性のレジャー時間は7カ国中最も長く、女性もノルウェーに次いで長い。

家事時間

平日・勤務日、週末・非勤務日ともに、日本の家事時間は、男女ともに欧州各国よりも短い。特に、日本の男性の家事時間は著しく短く、平日・勤務日の家事時間は、1日わずか10分にすぎない。

学習時間

平日・勤務日、週末・非勤務日ともに、日本の学習時間は、男女ともに欧州各国よりも短い。

図表7 【平日・勤務日】1日の時間の使い方

(単位 時:分)

大分類		日本	フィンランド	フランス	ドイツ	ノルウェー	スペイン	スウェーデン	イギリス
男性	パーソナルケア計	9:29	9:06	10:24	9:16	8:59	9:49	8:49	9:16
	労働計	9:55	8:31	8:22	7:56	8:07	8:40	8:45	8:46
	学習計	0:00	0:04	0:01	0:07	0:02	0:07	0:02	0:02
	家事計	0:10	1:24	1:11	1:21	1:36	0:59	1:35	1:07
	レジャー計	2:54	3:31	2:40	3:43	3:47	2:54	3:18	3:09
	移動計	1:26	1:16	1:20	1:33	1:26	1:30	1:27	1:35
	その他・不明	0:04	0:09	0:02	0:04	0:03	0:02	0:04	0:05
	N	44,196	845	1,912	2,835	996	4,912	841	1,478
女性	パーソナルケア計	9:46	9:24	10:28	9:31	9:22	9:47	9:16	9:35
	労働計	8:32	7:44	7:54	7:28	7:19	7:21	8:12	8:02
	学習計	0:00	0:05	0:02	0:11	0:05	0:11	0:02	0:03
	家事計	1:27	2:15	2:13	1:58	2:23	2:44	2:06	1:52
	レジャー計	2:53	3:10	2:03	3:20	3:32	2:23	2:56	2:53
	移動計	1:13	1:17	1:16	1:27	1:17	1:32	1:24	1:29
	その他・不明	0:06	0:06	0:03	0:04	0:03	0:03	0:03	0:05
	N	19,596	780	1,155	1,332	609	3,183	653	899

図表8

【週末・非勤務日】1日の時間の使い方

(単位 時:分)

大分類		日本	フィンランド	フランス	ノルウェー	スペイン	スウェーデン	イギリス
男性	パーソナルケア計	11:22	11:50	13:08	11:12	12:45	11:34	11:37
	労働計	0:45	0:13	0:14	0:12	0:28	0:19	0:10
	学習計	0:00	0:02	0:02	0:01	0:04	0:03	0:03
	家事計	1:26	3:03	3:10	3:20	2:14	3:29	3:22
	レジャー計	8:40	7:24	6:21	7:52	7:08	6:54	7:00
	移動計	1:21	1:20	1:01	1:20	1:19	1:36	1:40
	その他・不明	0:23	0:08	0:02	0:02	0:02	0:05	0:09
	N	51,044	712	642	340	2,033	873	1,077
女性	パーソナルケア計	11:31	11:53	13:20	11:36	12:20	11:51	11:52
	労働計	0:29	0:08	0:13	0:07	0:33	0:18	0:09
	学習計	0:00	0:04	0:02	0:02	0:08	0:04	0:03
	家事計	3:27	4:11	4:43	3:55	4:01	4:11	4:21
	レジャー計	6:40	6:18	4:44	7:13	5:40	6:10	5:58
	移動計	1:30	1:18	0:57	1:04	1:14	1:23	1:30
	その他・不明	0:20	0:07	0:02	0:03	0:04	0:03	0:07
	N	22,764	698	377	199	1,285	683	777

本調査の詳細は、以下のサイトを参照いただきたい。

<http://www.esri.go.jp/archive/hou/houkoku.html>